

二三男くんの 未来日記

国は2014(平成26)年に「まち・ひと・しごと創生法」に基づき「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。総合戦略では、①地方における安定した雇用を創出する②地方への新しいひとの流れをつくる③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する——という四つの基本目標を掲げました。また、同法では地域の特性を踏まえた「地方版総合戦略」を策定するよう努めなければならないと定められています。全国で人口が減少している中で、一極集中が進む東京はとかく「独り勝ち」と言われがちですが、出生率の低下や高齢化といった大都市特有の課題が立ちはだかっています。今から70年前の東京は、戦災で人口が減少し、焼け野原からの復興に挑みました。もしも当時の人たちが、現代の東京を見たら、何を感じ、どんな希望を抱くでしょうか。この連載では、70年前からタイムスリップしてきた二三男くんが、23区の「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」等を通じて23区の将来の展望を紹介していきます。

戦後、1947(昭和22)年に日本国憲法とともに地方自治法が制定され、「都の区は、これを特別区という」と定められ、特別区が誕生しました。同年3月15日、ほぼ現在の姿である22区が誕生し、8月1日には練馬区が板橋区から独立して、現在の23区となりました。

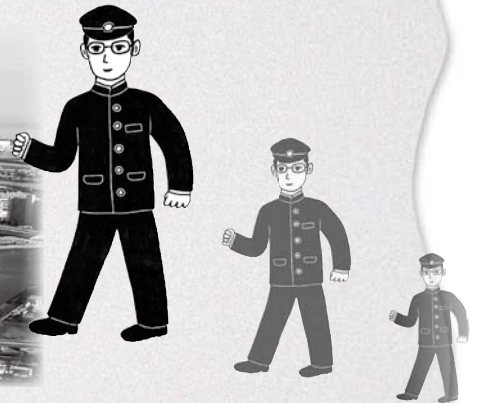
その1947(昭和22)年、ポカボカとあたたかな日差しが注ぐ屋下がりの出来事です。T大学に通う二三男くんは、江東区のとある埠頭から東京の街を眺めていました。

東京が焼け野原になった戦争が終わって、まだ2年。復興にはほど遠い荒廃した東京の姿を眺めながら、大きな絶望感と小さな希望を抱いていました。

「ボクは将来、地方公務員になって、新しく誕生した特別区で東京を復興させたい」

温かな日差しのせいでしょうか、ふと二三男くんはめまいを感じて、ふらつきました。「だめだ、だめだ」と目をこすると、海の向こうに蜃気楼のように揺らぐ摩天楼が姿を現しました。

「ここは、ニューヨークか?そ



れとも、ロンドンか?」

もう一度、二三男くんは目をこすり、目の前の光景が夢ではないかと疑いました。そして、まためまいがして、ついに二三男くんは足を踏み外して、海に転落してしまいました。

「ああああああっ!」

悲鳴を上げて、海に落ちていく

二三男くん。

ぶくぶくぶく…。

泳ぎが苦手な二三男くんは、海に沈んでゆきます。

「ああ、ボクは死んでしまうのか……」

意識が遠のきました。

「お兄さん、大丈夫?」

気がつくと、二三男くんは見知らぬ女性に体を揺すられていました。二三男くんは、高層マンションが建ち並ぶ都会のど真ん中に倒れていました。そこには、生まれてから見たこともない、空に届いてしまふような高い高層建築物がいくつも建っています。

「なんだ、こりゃ!ここはどこだ?」

2018年1月、70年の時をタイムスリップした二三男くんの探検が始まります。